

光受寺通信

NO.186

R6・7・1

発行元 光受寺

発行



かつて主に女性が夢中になっていた韓国ドラマ。内容が良かったのか、俳優が好みだったのかは分かりませんが最近私もドブプリとはまってしまっています。

平日のほぼ毎日、午後5時から私のゴールデンタイム。今は「トニー」という女性が主人公の歴史ものを見ています。終始繰り返されるドキドキ感がたまらないのです。今までにも「チャングム」や「イサン」という女性が主人公のドラマがありました。同じように惹きつけられていました。坊守は「あんたチョットおかしくない」というのですが、大谷選手の活躍と、このドラマを観ることは欠かせないのです。決してそれぞれの主人公が美人だからということではありませんが、展開される人間の強さ、弱さ、醜さ、美しさのあり方に考えさせられ、感動させられているからなのです。

番組の終わりには、次回の話の展開の想像が余韻となってきました。それはちょうど子供のころに夢中になって観ていた月光仮面や国松君や赤胴鈴之助の連続番組の、そのように思えるのです。

思うに韓国番組は、私たち日本人に消え入りそうになっっている心の記憶を呼び覚ましてくれるように思われるのです。それはあの俳優たちの迫真の演技があるからだとは思いますが、それだけではないようにも思えるのです。

こんなことを学びました。(歎異抄)

6月15日(土) 午後2時より

第10条

この条は「師訓編」といわれ、親鸞聖人が語られたお念仏についての最も深いお心が述べられている条です。『歎異抄』前半の第一条から第九条までの言葉の真意が、ここに述べられています。

また、『歎異抄』の後半へと導く「中序」あるいは「別序」として扱われることもある内容も含まれています。

本文

「念仏には無義をもつて義とす。不可称不可説不可思議のゆえに」とおおせそうらいき

意訳

「阿弥陀仏に救われた人の称える他力の念仏は、一切の自力のはからいを離れているのです。それは、言うことも説くことも、想像することもできないのですから、とおっしゃいました」。

念仏はお釈迦様のお悟りなつた言葉にならない世界を、あえて私たちを救わんがために言葉として伝えて下さっているのが「南無阿弥陀仏」ということなのです。

その理由

○如去(によこ) ↓ お釈迦様がお悟りを開かれたとき、「如」つまり真実の世界を誰かに伝えようとしても伝えようがなかったため、自分一人のものとして済まされようとなさつたのですが、その時、お釈迦様の心に心痛(不安)が起つたとされます。

○如来(によらい) ↓ そうした折、阿難というお弟子が、お釈迦様に何とか説き聞かしてほしいと懇願しました。お釈迦様は自分一人のさとりは本當の悟りではないと思われ、言葉にならない世界を南無阿弥陀仏で表されたのです。それが願いとなり、すべてのものが分け隔てなくこの世界に目覚めるようにとお示し下さつたのです。

大垣の水

災害が起こるたびに、水の大切さが身に沁みますが、これは日本だけのことでなく地球上のどこにおいても同じことが言えます。

ここ大垣市万石町にあるフォーラムホテルの一角には自噴水が滾々と湧き出でています。この町は私の故郷でもあり近所でもあります。こうして水の湧き出でているのを見ると昔の生活を思い起こし懐かしくもなります。井戸水を利用して庭先に小さな池を作り魚を生かしたり、冷蔵庫代わりに野菜などを冷やしたりしていました。

もちろん水道料金などかかることもなく、年中おいしい水をいただくことができました。今では衛生上のこともあってか水道が引き込まれています。空気と水は人間が生きるための最低条件ですので、本来は無料であつてもおかしくないと思うのですが、無理でしょうね。



年中同じ温度で、自然の味がうれしい。

ところでここには、「カンボジアにも幸福の泉」と呼びかけられ基金箱が設置してあります。

井戸が少ないカンボジアでは、ため池の水も貴重な飲料水となっているのです。

日常的にあるこうした現実には想像以上に大変なことだらう思います。いま私たちにできることは、せめて募金活動で協力させていただきたくことかなと思ひ、毎回このお水のお恵みいただく度に感謝の思いを込めて募金をさせていただきます。

「カンボジア」に幸せを！

その人を憶(おも)いて

我は生き

その人を忘れて

我は迷う

金子大栄

この言葉は宗祖七百回御遠忌の折に「宗祖を憶う」として詠まれた一節です。

「その人」とは宗祖のことですが、それは私たちと縁のある亡き方でもあり、仏さまとして出会いなおしていくことなのでしょう。今、改めて私たちに願われている「願い」を聞いていく歩みが始まるのです。

飛龍梅が SOS

ここ数年樹勢が衰えてきたと心配していたのですが、今年の剪定を終えた後、新芽の出が悪く、梅雨に入るころになつてもいつに芽が出る気配がありませんでした。

年々衰退傾向にあることは感じてはいましたが、いよいよ枯れるのも間近かと思われるほど深刻な状態です。原因は想像しているだけで、はつきりとはわかりません。樹木医さんに一度診てもらおうかと思つています。

できることなら光受寺のシンボルの存在でもありますので、元気になってくれることを願つています。

中央より上部がひどい状態となつています。



ご案内

○仏教公開講座

岐阜高山教区において、真宗大谷派岐阜教区教化センター主催の講座が、毎月20日午後2時より、一年間、岐阜教務所において開かれます。

7月は同朋大学の名誉教授である池田勇諦氏です。ご関心のある方は、住職までお尋ねください。

○暁天講座(安八地区) 光頭寺(安八町森部) 6時半〜 講師 近藤龍磨氏(廣専寺住職)

聴講金は光受寺で負担します。多くの方に参加いただきたいと思います。

お寺サロン 7月18日(木) 光受寺

午後1時30〜2時30

『極楽浄土の話』 当院 若院

参加自由 お茶タイムもあります。

光受寺学習会 7月20日(土) 午後2時〜

歎異抄はちよつと一休み。法語を味わう会とします。お気軽にどうぞ。 8月はお休みです。